

## 7. 福島県 (Fukushima Pref.)

作成者: 齋藤忠雄<sup>1)</sup>

作成日付: 2003年1月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EX	ア	—	オオルリシジミ	—	—	若宮(会津坂下町)	1904年の記録あり	食草のクララの自生地が開墾により壊滅	黒澤良彦, 1990. 福島県会津地方のオオルリシジミ. 月刊むし230:7-9. 黒澤良彦, 1991. (福島県会津地方のオオルリシジミ)訂正. 月刊むし239:31. 新国豊七, 1905. キフテフの分布とオオルリシジミ並びにルリシジミの食草. 昆虫世界9(2):79. たた(高野鷹蔵), 1905. 会津平原の胡蝶. 博物の友5(24):51-52
EN	ク	V	ヒョウモンモドキ	—	谷津田川(西郷村), 高清水(西郷村)	—	1968, 1974年の記録あり.	草地開発による生息地の減少	限りなく絶滅に近い. 田添京二, 1974. 福島県のゴマシジミとヒョウモンモドキ. 昆虫と自然9(11):32-33. 水野谷昭三, 1998. ヒョウモンモドキの西郷村での記録. ふくしまの虫16:53
EN	ク	E	オオウラギンヒョウモン	—	湯野岳(いわき市)	—	1950, 1951年の記録あり	草地開発による生息地の減少	限りなく絶滅に近い. 小泉雅弘, 1953. 福島県平市付近の蝶類. 新昆虫6(4):33-37. 松崎有光, 1984. 福島県いわき市産蝶類最近の知見. ちようちょう7(12):43-53
EN	ク	—	ゴマシジミ	—	津島(浪江町)	—	1960年の記録あり	草地開発による生息地の減少	限りなく絶滅に近い. 田添京二, 1974. 福島県のゴマシジミとヒョウモンモドキ. 昆虫と自然9(11):32-33. 齋藤修司, 1997. 阿武隈山地のゴマシジミは今. ふくしまの虫15:38-42
VU	タ,テ	V	ヒメギフチョウ	—	福島市, 桑折町, 国見町, 川俣町	十万劫山(福島市), 飯坂町茂庭の一部(福島市), 鞍掛山(二本松市, 安達町)	1990年以前の記録は比較的多いが1990年代後半には極端に減少	ダム建設による大規模改変. 里山放置	一部地域では絶滅. 菅間敬治・他26名, 2000. 宮城, 福島両県におけるヒメギフチョウの分布. 青森の蝶11(1):23-79. 齋藤修司, 1988. 福島県のヒメギフチョウ( ). ふくしまの虫7:6-9. 齋藤修司, 1989. 福島県のヒメギフチョウ( ). ふくしまの虫8:3-4. 齋藤忠雄・小林潤一郎, 1994. 福島市楢上川上流域の昆虫・チョウ目・チョウ類. ふくしまの虫12:7-14. 佐藤 光, 1965. 福島, 川俣地方のヒメギフチョウの多産地の調査と考察. 福島生物8:9-10. 佐藤 光, 1966. 福島, 川俣地方のヒメギフチョウの多産地の調査と考察(2). 福島生物9:3-4. 鈴木 弘, 1987. 福島県のヒメギフチョウ( ). ふくしまの虫6:2-6. 室谷洋司, 2000. ヒメギフチョウの100年前と今. 青森の蝶11(1):2-22
VU	タ,テ	—	キマダラモドキ	—	福島市, いわき市, 北塩原村	—	いわき市の記録を除き1990年以前の記録である	発生地は局所的であり発生地の伐採等による	富田國男, 1992. 裏磐梯のキマダラモドキ. ふくしまの虫(10):30. 郡司正文, 1998. いわき市川前町におけるキマダラモドキの観察について. ふくしまの虫(17):16-17. 福島大学生物学研究会動物班, 1976. 弁天山における土壤動物と昆虫類. 福島大学教育学部生物研究会会報31:15-34. 田添京二, 1974. 福島県の蝶. らぶあえりす2:1-5
VU	カ	—	ヒョウモンチョウ	—	下郷町, 西郷村	—	下郷町, 西郷村では1957年に記録がある	草原の減少	佐久間博, 1963. 福島県産蝶類3種. 蝶と蛾14(1):26-27. 蜂谷 剛, 1958. 福島県の蝶類追記. 福島生物1:37-39
VU	タ	R	コヒョウモン	—	桧枝岐村	—	1987年の記録がある	森林伐採, 山肌乾燥化	田添京二, 1976. 福島県におけるコヒョウモンの記録. 福島生物19:41. 水野谷昭三, 1998. 南会津地方および県南地方の蝶3種について. ふくしまの虫 16:57-58. 矢島淳一郎, 1976. 尾瀬ヶ原のコヒョウモン. 福島生物19:43
VU	タ	R	オオイチモンジ	—	桧枝岐村	—	1982年の記録がある. その後台風による出水で激減	食樹の流出. 森林伐採	高橋 潔, 1994. 桧枝岐のオオイチモンジの記録. りぼし18:34. 平井 勇, 1975. オオイチモンジを福島県で再発見. 蝶と蛾26(2):84. 横井直人, 1987. 近年の福島県桧枝岐産オオイチモンジ採集・目撃記録. ふくしまの虫6:35.
VU	タ	R	フタスジチョウ	奥只見(桧枝岐村)	一部地域(桧枝岐村, 館岩村)	—	1980年代前半に多く報告されたがその後の報告が極めて少ない	奥只見を除き発生地が極めて狭いため人的影響も受けやすい	福田晴男・美ノ谷憲久, 1986. 見つけた! まぼろしのチョウ. 35pp. 大日本図書. 美ノ谷憲久・福田晴男, 1984. 奥只見～日光間のフタスジチョウに関する知見. 月刊むし160:20-23
VU	タ,テ	R	キマダラルリツバメ	右地域以外(三島町, 柳津町, 金山町)の耶麻郡, 河沼郡, 大沼郡の一部地域	一部地域(三島町, 柳津町, 金山町)	—	1980年代後半より道路開設, 老木伐採による絶滅地あり	道路拡幅や, 発生老朽木の伐採により減少	西会津地方に広く分布しているが, 桐, 桑等の古木老木につくハリブツシリアゲアリと共に生息しているため, 発生地は脆弱である. 三島町では, 町指定重要文化財として保護されている. 有賀俊司, 2000. 会津高田町のキマダラルリツバメについて(その分布と出現期). りぼし24:7-10. 伊藤良作, 1970. 福島県にてキマダラルリツバメを採集. 昆虫と自然5(9):32. 伊藤良作・大谷津妙子・米田重玄・植田信子, 1969. 博士山の蝶. 10pp. 茨城大学生物研究会. 郡司正文, 1999. 福島県産キマダラルリツバメについて. ふくしまの虫18:30-31. 鈴木智史, 1999. キマダラルリツバメのシマウマ型について. ふくしまの虫18:32. 角田伊一, 1986. 福島県産キマダラルリツバメ. 昆虫と自然21(5)6-10. 角田伊一, 1990. キマダラルリツバメ. 35pp. 三島町教育委員会. 藤岡知夫, 1992. 日本の秘蝶(2) 稀産産地のキマダラルリツバメ. Butterflies 3:3-13

## 7. 福島県 (Fukushima Pref.)

作成者: 齋藤忠雄<sup>1)</sup>

作成日付: 2003年1月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
VU	タ,テ	—	クロシジミ	—	山舟生(梁川町),猪苗代町	—	1970年代後半には多産地(猪苗代町)もあった	生息地が開墾により消滅。生息地の林の管理放棄	角田伊一, 1982. 福島県の蝶. 273pp. 歴史春秋社. 齋藤修司, 2000. 山都町で採集したクロシジミの記録. ふくしまの虫19: 45-46. 田添京二, 1999. 備忘, 福島県の蝶. ふくしまの虫18: 36. 蜂谷 剛, 1958. 福島県の蝶類採集追記. 福島生物18: 36
VU	カ	V	ミヤマシジミ	大川(会津若松市, 下郷町, 田島町)	阿武隈川(福島市, 梁川町)	—	1980年前半までは県北地方の堤防にも生息	出水による食草, 幼虫等の流出, 及び堤防の改修工事に伴う食草の除去, 定期的な全面除草	角田伊一, 1981. 日本産ミヤマシジミの地理的変異(上). 月刊むし119: 3-8. 角田伊一, 1981. 日本産ミヤマシジミの地理的変異(下). 月刊むし120: 19-24. 横井直人, 1985. ミヤマシジミ梁川町に産する. 福島虫の会3: 5
VU	タ,テ	—	チャマダラセセリ	—	いわき市, 川俣町, 都路村, 小野町, 浪江町, 三島町, 鮫川村, 西郷村	—	1980年以前に記録のあった地域で見られなくなった所もある. 1990年代になって新しく発見された所もある	若い杉植林地に発生している所もあるため杉の生長によって発生が危ぶまれる. 樹木の生長に伴う草地の減少. 発生地は極めて狭いため人的影響を受けやすい	阿部 剛, 1999. 阿武隈山地北部でチャマダラセセリを採集. ふくしまの虫18: 137. 有賀俊司・佐々木康弘・塩田正寛, 1986. 阿武隈山地の蝶(1)セセリチョウ科. おけら54: 25-65. 郡司正文, 1988. 小野町の蝶. ふくしまの虫7: 16-20. 郡司正文, 1989. チャマダラセセリの新産地. ふくしまの虫8: 38. 鈴木智史, 1992. いわき市川前小井井芋島で得た若干の蝶. ふくしまの虫10: 18-19. 鈴木智史, 1985. 那須火山帯(福島県側)にてチャマダラセセリを採集. 月刊むし172: 41
NT	チ,ト, 又	—	ギフチョウ	右を除く地域(西会津町)	上野尻(西会津町)	—	1990年代前半から減少し始めた生息地がある	杉植林地における杉の生長に伴い林床が暗くなり食草が減少	従来の生息地では, 減少しているところもあるが, 年によっては普通に見られる時もある. 石川佳宏, 1998. 西会津で採集したギフチョウとその観察記録. ふくしまの虫17: 12-15. 角田伊一, 1985. 福島県のギフチョウ属. 昆虫と自然20(4): 2-7. 新村太郎, 1940. 南信州産蝶類雑記. Zephyrus8(3/4): 122-130. 中島久朋・郡司正文, 1966. 西会津町産ギフチョウの変異個体について. ふくしまの虫14: 34. 鈴木智史, 1988. 西会津産ギフチョウに関する一知見. 蝶研フィ-ルド3(3): 25-2
NT	チ,ト	—	ツマグロキチョウ	いわき市, 矢祭町, 白河市, 西郷村	福島市	—	1970年頃には, 県北地方で少なからず記録されていたが現在では全く見られない	堤防の改修工事に伴う食草の除去, 定期的な全面除草. 食草の生育地が局所的である. 暖地性でもあり北限に近い	水野谷昭三, 1998. 中通り南部のツマグロキチョウについて. ふくしまの虫17: 38. 水野谷昭三, 2000. 県南のツマグロキチョウ1999年総決算. ふくしまの虫19: 42-43. 佐々木泰弘・有賀俊司・塩田正寛, 1990. 阿武隈の蝶(3)シロチョウ科. おけら56: 2-56. 小島吉男, 2001. ツマグロキチョウの群生. ふくしまの虫20: 23
NT	チ,ト	—	ヒメシロチョウ	猪苗代町, 矢祭町, 田島町	茂庭(福島市), 阿武隈川(伊達町), いわき市	—	1970年前半までは県北地方の堤防にも生息	堤防の改修工事に伴う食草の除去, 定期的な全面除草. 生息地が局所的で狭いため生息地全体が除草されやすい	齋藤忠雄, 1981. 福島市弁天山における蝶類の記録. 福島生物24: 33-36. 齋藤忠雄・小林潤一郎, 1994. 福島市摺上川上流域の昆虫・チョウ目・チョウ類. ふくしまの虫12: 7-14. 佐々木泰弘・有賀俊司・塩田正寛, 1990. 阿武隈の蝶(3)シロチョウ科. おけら56: 2-56. 水野谷昭三, 1998. ヒメシロチョウ今昔. ふくしまの虫17: 38. 水野谷昭三, 1999. 田島町にヒメシロチョウ健在. ふくしまの虫18: 135. 御船藤志, 2002. 福島県会津地方のヒメシロチョウについて. ふくしまの虫21: 14-16
NT	ト	—	ベニヒカゲ	—	飯豊山(山都町)	—	1990年代になって登山者も増え, 登山道の荒廃も目立ってきた	お花畑の踏みつけ. 雪田の荒廃	飯豊山は県内唯一の生息地. 齋藤修司, 1986. 山都町で分布が確認できた蝶類 96種. 福島生物29: 21-28. 角田伊一, 1982. 福島県の蝶. 273pp. 歴史春秋社. 中谷貴寿, 1987. 東北地方のベニヒカゲ雑記(4). 蝶研フィ-ルド. 2(1): 25-31. 中谷貴寿, 北川朝生, 2000. 東北地方のベニヒカゲの生息環境. 蝶と蛾51(4): 255-274. 中谷貴寿, 北川朝生, 2001. 東北地方のベニヒカゲの生息環境. 蝶と蛾52(4): 293-308
NT	ト	—	ウラジャノメ	西郷村, 川内村	舘岩村, 下郷町	—	1990年代前半頃から一部地域で減少	施設建設に伴う生息地改変. 道路拡幅に伴う生息地改変. 一部で森林伐採	分布は県の南東から南西部に限られる. 有賀俊司, 1991. ウラジャノメ採集記. おけら57: 45-47. 郡司正文, 1998. 阿武隈山地におけるウラジャノメの新産地. ふくしまの虫16: 58. 小林潤一郎, 2000. 舘岩村でのカラスシジミとウラジャノメの記録. ふくしまの虫19: 45. 塩田正寛, 1964. 会津駒ヶ岳の蝶類. インセクト14(2): 2-5. 水野谷昭三, 1998. 南会津地方および県南地方の蝶3種について16: 57-58

## 7. 福島県 (Fukushima Pref.)

作成者: 齋藤忠雄<sup>1)</sup>

作成日付: 2003年1月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
NT	チ,ト	—	カラスシジミ	桧枝岐村	戸ノ口原(猪苗代町)	—	1960年代の多産地(猪苗代町)は今はない	リゾート開発, 森林(食樹)の伐採	どこの産地でも, 密度は低い. 伊藤良作・大谷津妙子・米田重玄・植田信子, 1969. 博士山の蝶. 10pp. 茨城大学生物研究会. 薄井英司, 1994. 福島市でのカラスシジミの記録. ふくしまの虫12: 25. 郡司正文・大泉明雄・清水政宏・波多野耕二・志賀 隆, 2000. 阿武隈山地のチョウ. ふくしまの虫19: 1-3. 小林潤一郎, 2000. 館岩村でのカラスシジミとウラジャノメの記録. ふくしまの虫19: 45. 中島久朋, 1995. カラスシジミを桧枝岐村で採集. ふくしまの虫13: 25. 角田伊一, 1982. 福島県の蝶. 273pp
NT	チ,ト	—	オオゴマシジミ	桧枝岐村	吾妻山(北塩原村)	吾妻山(福島市)	福島市においては, 1960年代後半まで記録あり	森林の皆伐による山肌の乾燥. 食草が薬草としての採取される.	小林博隆, 1985. 県内における2, 3の蝶の記録. ふくしまの虫3: 4. 鈴木 弘, 1993. 福島市の蝶. ふくしまの虫11: 6-7. 蜂谷 剛, 1958. 福島県の蝶類追加. 福島生物1: 37-38. 横井直人, 1985. 桧枝岐にオオゴマシジミを求めて. ふくしまの虫3: 8-9
NT	チ,ト	—	ホンチャバネセセリ	福島市	川俣町, 飯館村, 桑折町	—	阿武隈山地北部においては, 1980年代以降記録がなくなった所もある	道路改変に伴う周辺草地の減少. 人工林の増加. 発生地の開墾	有賀俊司・佐々木康弘・塩田正寛, 1986. 阿武隈山地の蝶(1)セセリチョウ科. おけら54: 25-65. 伊藤良作・大谷津妙子・米田重玄・植田信子, 1969. 博士山の蝶. 10pp. 茨城大学生物研究会
DD	-	EX	コヒョウモンモドキ	—	桧枝岐村?	—	—	—	1971年に桧枝岐村で採集された1例のみのため, 未評価とする. 新部公亮, 1992. 福島県産新記録種コヒョウモンモドキについて. Butterflies3: 53

1) 〒960-8156 福島県福島市田沢字桜台18-5